



ぎのわん地域づくり塾

平成 30 年度
- 第 3 期 -

主催：宜野湾市 / 宜野湾市社会福祉協議会
共催：沖縄国際大学 運営：特定非営利活動法人 まちなか研究所わくわく

第 5 回 地域課題を調べる&企画を立てる②

日時：9月17日(月) 13:00-17:00

講師：高崎経済大学教授 櫻井常矢 氏

まちなか研究所わくわく 宮道喜一 氏

情報提供者：上大謝名自治会、婦人会、子ども会、子育てサロン、ミニデイサービスこがね会、老人会、地域支え合い活動委員会、PTA、民生委員・児童委員、まちづくり結愛会、自主防災会

場所：上大謝名公民館

参加者：28名(内塾生22名)



第5回講座では、各チームで設定した地域課題を深めるための情報を得る地域インタビューとゼミ活動を行いました。地域インタビューでは、6か所のブースを設け、地域で活動をされている方々をお招きし、話を伺いました。ゼミ活動では、中間発表に向けた話し合いを行うチームとまちあるきをするチームに分かれました。

最後に、各チームの一日の気付きとまとめについて発表を行い、当塾アドバイザーである櫻井先生からコメントを頂きました。

【櫻井先生の講話より】

- 第3期生には、地域で活動する当事者が大勢参加されている。問題解決に向けた動きにつながることを期待する一方、いつもの自分、「当たり前」から抜け出し大胆な提案をしてほしい。
- 「課題」は「資源」になりうる。地域が気づいていないことを議論し、「資源」として捉える

ことが大事。どう解釈するかが大事。

- 地域の団体の活動は活発だが、団体間の連携が弱いという話が出ていた。資源は豊富なのにつながれていない。もったいない。
- コーディネーターは、課題解決の主体ではない。課題解決は、地域の皆さんがやること。地域の皆さんに気づいてもらう場面をどうつくるのか。プロセスが大事。

【講座レポートより】

- 人材は豊か。点と点をつなぐネットワーク作りが大切。
- 個々の活動は活発なのに、横のつながりが少ないという気づきが各グループからあった。
- 当事者意識に縛られないことも大切。
- 地域の方の生の声を聴けて良かった。意見に違いはあっても望む未来像は共通していると感じました。